

# 秘 ブツ 命蓮 開帳

命蓮

お姉さんと  
良いコト  
しない？

カッ  
カッ

DOJIN  
R18  
成人向け  
18歳未満の  
購入・閲覧禁止

美少女！  
全現集合



秘  
ブツ  
命門帳  
蓮土寸

奉仕だよ!  
全員集合



# 底なしライダー

聖白蓮(命蓮寺代表)

深夜 人里 とある場所にて

黒装束に身を包んだ女が男にまたがり嬌声をあげながら娼婦のように腰をふっている。さらに回りにいる男の陰茎にも器用に奉仕している。

ズン！ズン！ズン！

「意外だったな……」  
「まさかあの寺の尼さんがこんなことしてるなんてよお♡」  
「こんなにエロイ身体してるんだ。持て余してたんだらうよ。」  
「おらおら！ここが気持ちいいのわ！この変態尼っ！」

「いっ♡いきなり……ンンっ♡そんなに奥までっ♡」  
「あっ♡あっ♡こちらのおちんぼも……素敵……っ♡」  
「はむ……じゆるぼぼ！んじゆるじゆるるるる！」  
「おおお……このアマどんだけフェラうまいんだ……」  
「お、うはあ……す、すげえ……♡」  
「ビュル！ビュルル！ドピッ！」

ライダースーツに身を包み、夜のライドを楽しんでいるのは命蓮寺代表・聖白蓮。

とある男に肉欲の快楽を叩きこまれた結果、裏の世界で肉便器になり、それでも物足りない時はこうして辻説法ならぬ辻セックスに勤しんでいた。今の彼女の姿は、人々を救いに導く尼僧ではなく、人々を惑わす魔界の淫魔といったところか。

「こっちもスパルトかけるぜ！」  
「あっ♡好き♡ちゃんぽ♡このちゃんぽ好き♡いっ♡ちやう♡」  
「変態マンゴに♡ニマンゴに♡いっ♡ばい射精して♡」  
「うっ！射精るううううう！！」  
「ぶびう！どびゆぶっ！ぶびゆゆるるっ！！」  
「おっ♡おおおおおおおおおおほおおおお」  
「腔内射精すんごきもっ♡いいいいいい♡」  
「白蓮は全身を仰け反らせてビクビクと身体を震わせた。子宮が満たされる悦びを、全身全霊で感じるように。」  
「はあはあ……♡もっ♡とっ♡もっ♡とっ♡」  
「くっ♡くっ♡言われなくてもこんな尼さんなら……」

「1時間後……」  
「そこには淫魔に全てを捧げた哀れな男たちの身体が複数よこたわって……」  
「あら♡みなさんもう終わりで……？」  
「あ♡そのあなたたち♡見てるだけで……」  
「不運にもこの現場に出くわしてしまっ♡」  
「男たちが誘蛾灯に吸い寄せられる虫のよう……」  
「白蓮へと群がっていく……」  
「彼女は今宵も男性に跨がり……」  
「男根を握りしめ、夜の首都高を踊るのらう。」



# 童貞少年のトラウマ

寅丸星(本尊代理)

命運寺では性経験のない者を救済するために、寺の修行者が交代で筆おろし修行を行っている。本日の担当は寅丸星。この修行の担当になるのが楽しみのようなのだ。そこへ今日も二人の少年が足を運んできた……童貞卒業のために足を運んできた……

もっと  
気持ち良くな……♡

もっとが♡  
もっとが♡

「あっ♡あっ♡すっ♡いいいい!!おねえちゃんのマンコ温かくて気持ちいい!!  
これが女の人の……うあっだめっ!!あっでるでる!!もう出ちゃうう!!腔内に射精ちゃう♡♡」  
「ビュルルルビュッビュウウ!!」  
あまりにも初体験の快感が大きかったのだからか。  
少年は挿入してももの数秒で射精してしまっただようだ。  
「あ♡まだ大きいまままだね♡それじゃ今からは卒業チンポで  
気の済むまでおねえちゃんのマンコパンパンしていいからね♡」  
「うん♡もっ♡とっ♡はいする♡」

数時間後……  
「おねえちゃんもうやめて!もう出ないよ!!」  
「大丈夫ですよ♡まだまだ精子は出ますから♡」  
お姉ちゃんは大丈夫だから♡安心していいよ♡  
「ひいひい!!」  
「びゆる!どびゆるびゆるぶびっ!!」  
「ほくら出た♡でもまだまだいきますよ♡」  
「もう……や……べ……で……」

「うう……うう……」  
「ああ……また失神しちゃいました……  
私ってほんとにドジですね♡」  
寅丸星は真面目な性格も手伝わってか  
いつも必要以上にやりすぎてしまうようだ。  
余談だが虎は発情期になると  
2日で100回以上交尾を行うらしい……



# ネズミの大好物

ナズーリン(寺の協力者)

毘沙門天からの命で寅丸星の監視を続けているナズーリン  
本来なら寺の活動とは関係ない彼女だが  
名目上主人である寅丸星の求めを無下に断るわけにもいかず  
寺の一角にある陰茎清浄穴担当として働いていた。

(全くご主人も何を考えてるんだ…  
こんなこと早く終わってくれ…)  
「はい、次の人…」  
「おっすおねがいします…」  
グググ…ポロン♥モワッ♥

「んんんんんん!!」(この匂いは童貞のチンカスチーズ!!)  
「あっすいません…最近ろくに風呂も入れなくて…  
こんな汚すぎるのはやっぱりダメ…ですよね?」  
「ふう…まったく君は仕方のないやつだな♥」

はむっ!ぢゅぶぶぶぶぶ!!  
「あっだめそんなバキュームかけちゃ!!汚い!!汚いですよ!!  
あついやっ♥だめですよ亀頭を舌で舐め回しちゃ♥」  
「らいひょうふら!!これふあひごとらふあらな!」  
(芳醇な香りが鼻に立ち上って臭覚を直に刺激するう♥  
童貞のくせに生意気だぞ♥だけこのチンコと  
チンカスチーズ…すきすきすきすきすきすきすき♥)  
ぶぽっ!ぶぽ!ぢゅぶぢゅぶ♥ぢゅぽぽぽぽぽ♥  
「あっ♥そんな激しくしたら♥も、もう綺麗になつたからいいです!!  
やめてっ!あっ♥離してください!離してください♥離してええ♥♥」  
「獲物を逃してなるものかとナズーリンはしっぽで掴んで離さない。♥  
「いろいろ!なふあにれんぶらすんら!!」  
「あっ♥イク♥射精ます!射精ますうううう♥♥」  
ブビュ!!どびゅどぶどぶ♥ビュ〜ビュ〜♥♥むわっ♥

ニョロッ  
ニョロッ

ゴク…♥ゴクゴク…♥  
「おふあっ♥素晴らしく濃いチンカスの  
ごちそうに加えて特濃生搾りミルクまで  
サービスとは♥君は優秀な子だね!♥」











# 行列のできる托鉢

雲居一輪(修行者)

「観自在菩薩行深般若波羅蜜多時…」  
街角にお経を唱える声が響く。  
命蓮寺では修行の一環として、修行者が  
定期的な托鉢を行っている。  
今日、托鉢を行っている彼女は雲居一輪。  
聖白蓮を崇拝する一人である。



はあ、

はあ、

と、そこへなぜかぞろぞろと男たちが…  
「へへへ…アンタが来るの楽しみにしてたんだよ…  
いつものやつ頼むぜ…」  
チャリンチャリンチャリン  
托鉢らしく男たちは銭や食料をその鉢へと入れていく。  
もちろん、いづれにせよ大した額ではない。  
「はーい♡出家にごあんない♡」  
そう言う一輪は男たちを路地裏へと連れ込んだ…



「ぱちゅぱちゅぱんぱんぱん」  
「はあはあ…やっぱすげえよアンタのミミズ穴！  
こんなもんたねえ！早漏になっちゃまう！」  
「はあん素敵♡もったかき回してくださいます♡」  
「尼さんのくせにこんなマンコ持ってるなんて…  
ああくそ！毎日抱きたいくらいだっ！」  
「あん♡♡お♡お♡お寺にいらっしやればいつでも  
御相手いたしますわ♡」  
「はっはっ♡ほ♡ほ♡どうか!?」  
「ええ♡ほんとうですわ♡わたしだけでなく  
命蓮寺の修行者一同でお相手致しますわ♡」  
「うう…行く行く！それなら絶対行く！」  
「もうイク♡あ♡あ♡イクイクイク♡♡」  
「ビュッ♡ッ♡!!ビュウウウウ!!ビュルッ…ドブン…」  
「あら♡こんなにいっぱい♡」  
「はあはあ♡お♡お♡これも…っ♡」  
果てた男は満足気に臀部に正の字を書き足していった。  
「徳を重ねさせていただきましてありがとうございます♡」  
感謝の言葉を言うまもなくまた次の男が身体を重ねる。  
「さーて次は俺の番だぜ♡」  
「まあ…大きい♡楽しみですわ♡」

数十分後…  
「あん♡♡いやっ♡す♡す♡この  
おまんこ♡す♡す♡このお♡くる♡  
お♡♡イクイク♡♡い♡ち♡や♡う♡  
ん♡あ♡♡はあ♡あ♡あ♡あ♡ん♡♡  
路地裏には嬌声が響く。」



# 時代親乳の雲の山

おやぢ  
雲山(雲居一輪の従者)

雲山一輪の忠実なる従者である。主の命と修行者であることから彼も修行に従事している。そう、彼もである。自身が雲の身体を持っていることで大きさのみならず形・質量・質感までもが自由自在に変えることができる。そんな特異な能力をもちいることのできること。今日も今日とて修行希望者たちの変態的な…否、ニッチなニーズに対応するのであった。

ぶるん

タツプタプぬるぬるムニユムニぬちゆぬちゆ  
「はあぁぁっ!…はあんっ!…あっ♡あっ♡」  
「……出るか?」  
「あ、あぁぁ!!あぁぁぁぁぁぁ!!」

ぶるん

ドクドクドクドク!!びゆく♡とぶつ♡  
巨大な乳房に身体を埋められ、その谷間に全身と股間を刺激され続けた結果、男はこれはたまらずとその乳内へ精液を注ぎこんだ。その間はただただ悲鳴を上げるしかできなかった。  
「はっ♡はっ♡サイコー!…♡」  
「ん!…いっぱい出たな」  
「あっ♡揺らさないで♡いま敏感だから…♡あっ!」  
「……もつと出るだろ?」

特に希望者が多いのがこの全身パイズリである。全身を滑らかなで柔らかな乳肉に包まれてのパイズリは得も言われぬ快感だという。まさに全身を陰茎と模しての行為なのだ。その快楽も想像に難くないだろう。ところが、彼はその身を自由自在に変化させることができるので、当然ながら膣も使える。そして…入れる。まさしく胎内回帰といったところか。しかし、全身パイズリですらあの快感なのだ。一生に一度、全身挿入を試してみるのもいいだろう…



# 生類憐れみエイリアン

封獣ぬえ(修行者)

「ブモ、オ!! ブヒイ! ブヒヒいーん!!  
「やめっ♥ あっやめっ♥ ゆっゆっふりっ♥」  
人里の外れにある馬小屋から荒々しい嘶きと艶声が聞こえる。

巨大な雄馬とまぐわっているのは、封獣ぬえ。修行者。彼女の能力は自分の正体を判らなくするというもの。その能力で自分への認識を変える「」を活用し、人以外の動物…例えば、犬や豚、珍しいところではホブゴブリンなど様々な動物が情欲に狂った時にその処理を行っている。無料でやっているいわば一種の慈善事業である。

本日の相手は発情期の5歳馬。相手となる牝馬がいないためこの時期になると暴れ馬と化して飼い主を困らせていた。

「お、落ちていて! 逃げないから!  
おっ! おっ! おほおおおお!  
認識を変えるといつてもぬえ自身の身体が  
変わるわけではない。少女の下腹部は  
馬の巨根を飲み込んだ。歪なまでに膨らんでいた。

「おほおおおおへえええ♥ しゅごいしゅごい♥  
お馬さんチンポしゅごいしゅごい!!  
ブヒイ! ブヒイ! ビヒヒーん!!  
「あっ! ちんぽ膨らんで!? 出る!? 出るのっ!!  
お馬さん精子でりゅううううう!!  
ブビュルツルツル!! どぼどぼぼっ!!  
「んひいひいひいひい♥  
容赦のない大量射精。馬の巨根を飲み込んでいた  
その腹部が更に大きく膨らんでいく。  
しばらく射精が続いた後によやくこの馬も  
満足したのか大人しくなったようだ。  
しかし聞く耳持たぬこの雄馬  
まさに馬の耳に念仏といったところか。







